

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

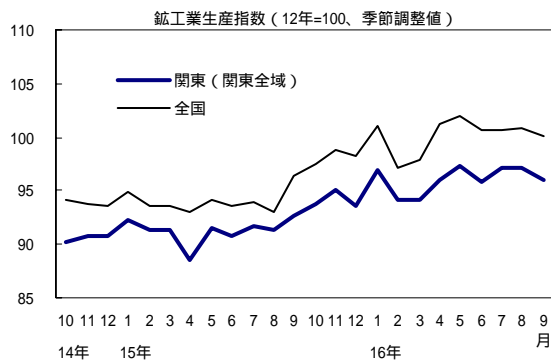
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 8 月)	今回 (平成 16 年 11 月)	
鉱工業生産	増加	緩やかに増加	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、改善が続いている	改善	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置は国内外向けともに堅調に推移しており、半導体製造装置はやや一服感がみられるものの高水準で、5 四半期連続の増加となった。化学は、中国向けを中心とする輸出と国内需要が活発であることから堅調な生産が続いており、増加している。輸送機械は、自動車は引き続き北米や欧州向けの輸出が好調で、自動車部品も堅調であることから、全体としては高水準で推移しているものの、四半期で見ると減少となった。情報通信機械は、液晶テレビが堅調な一方で、携帯電話が弱含みで推移し、全体としてはおおむね横ばいとなっている。電気機械は、8月にセパレート型エアコンが大きく増加したが、半導体・IC測定器に一服感がみられ、全体としては減少している。



(備考) 平成 16 年 9 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	3.2	5.1	3.1	2.1
化学	13.7	0.2	2.3	1.2	1.0
輸送機械	11.3	4.5	2.1	3.3	10.8
情報通信機械	8.6	9.6	0.3	1.2	27.1
電気機械	7.9	5.8	2.4	5.0	4.2
鉱工業	100.0	1.4	0.4	0.9	4.7

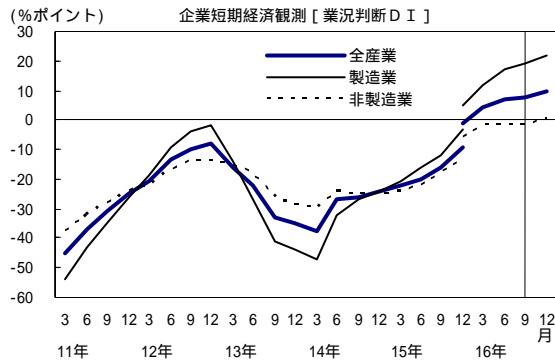
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2. 7~9 月期は速報値。

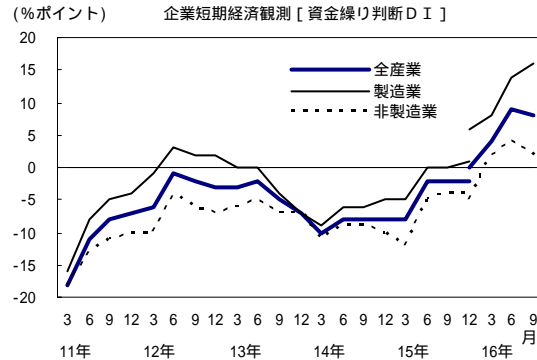
3. 7~9 月期の化学の生産、出荷については、7 月、8 月
確報値の平均より算出。在庫については、8 月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

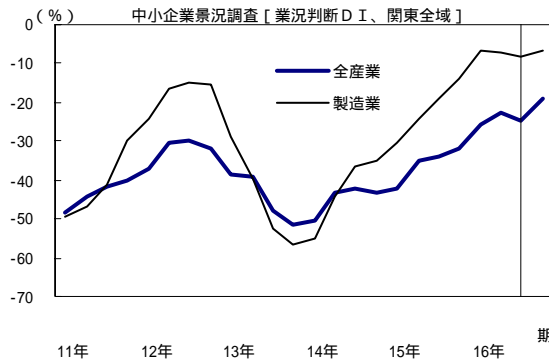
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「価格競争に下げ止まり感はあるが、低迷している状況が続き、上昇する気配は感じられない。印刷以外に、印刷物の画像データ保存用CD (PDF) 制作の依頼が少しずつ伸びて、売上が前年同月を下回ることはない (出版・印刷・同関連産業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

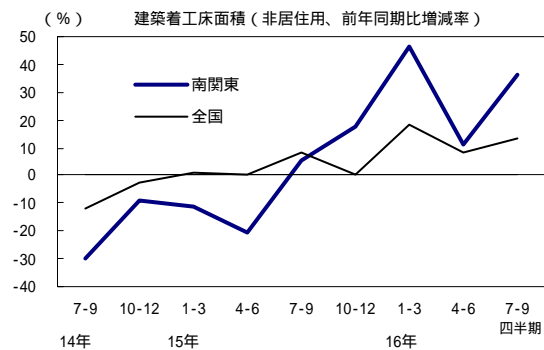
企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	3.6	23.2(1.3)
製造業	3.5	26.3(2.1)
非製造業	3.8	15.9(0.7)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。

調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

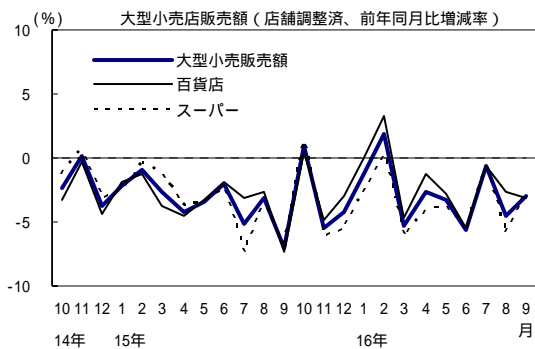
(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、猛暑に加えクリアランスセールや改装の効果がみられ、身の回り品は前年を上回ったものの、飲食料品が振るわず、全体ではやや前年を下回った。8月は、猛暑の影響で秋物衣料が低調であったことに加え、オリンピックや台風で来客数が減少し、前年割れとなった。9月は、厳しい残暑や後半の天候不順の影響から、主力の婦人服を中心に秋物衣料が低調となり、引き続き前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の10月の売上高は、前年同月比で2.8%減となっている。

スーパーは、7月は主力の飲食料品や衣料品、家庭用品に動きがみられたものの、8月以降は飲食料品の伸び悩みに加え、衣料品も大きく前年を下回ったことから、全体では7か月連続で前年を下回った。景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

「青果物は台風等の災害により価格が高騰しており、客の購入単位も少なくなっている。逆に、冷凍野菜や野菜ジュース等の代替商品の需要は伸びているが、青果の減少分をカバーするほどではない(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

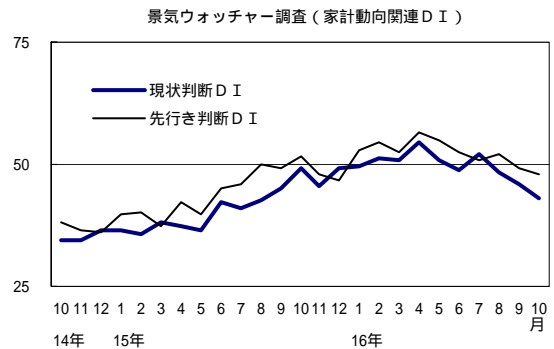
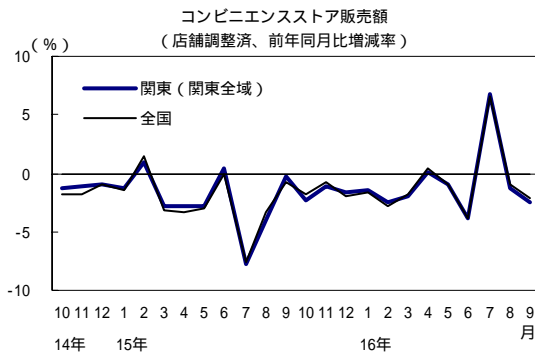


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.1	0.2	3.9	2.6
百貨店	2.5	0.8	3.3	2.0
スーパー	3.7	3.0	4.5	3.1
コンビニ	1.7	1.9	1.6	1.0
景気ウォッチャー	47.8	50.7	51.3	48.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。16年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域

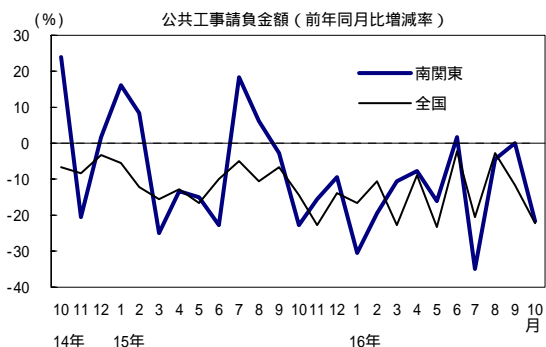
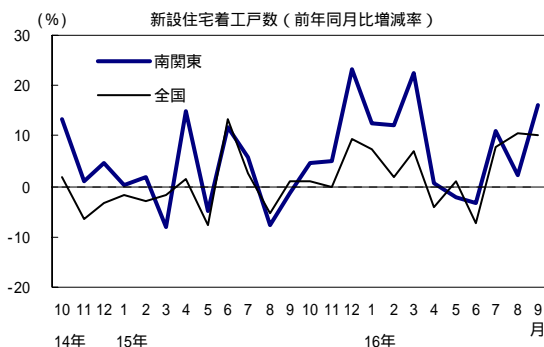
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

貸家、分譲を中心に前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

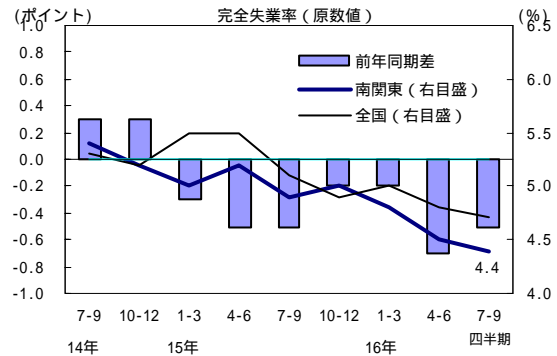
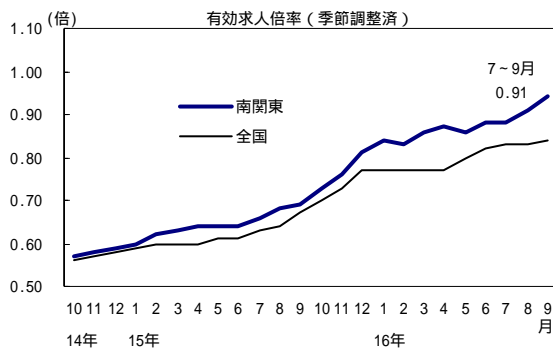


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

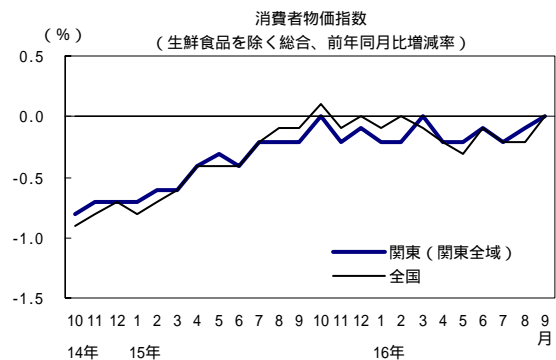
「求人数は増加しているが、有期雇用契約、非正規雇用求人が増加しているため、正規雇用を希望する求職者とのミスマッチがあり、就職になかなか結び付かない (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数	1,163	1,172	1,075	1,080	349
(前年比)	17.3	15.2	16.9	10.6	23.0
負債総額	7,886	12,879	7,549	7,251	1,758
(前年比)	51.1	35.3	11.4	46.2	25.8



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・連続して上陸する台風の影響もあり、営繕関係の引き合いが増加している (建設業)

<先行き>

・原材料価格の上昇で売上が上がらない。中越地震の影響で家の中で使うプラスチックの注文が急増加しているため、生産量はこれから多くなる (プラスチック製品製造業)

